

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
環境技術委員長 坂 本 忠 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第328回)

日 時 平成28年9月20日 (火) 午後1時半～4時

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第3会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第3会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、**炭素繊維の生産性向上に寄与する新技術**

解説 影山和郎東京大学大学院工学系研究科教授

3、『環境技術関連ニュース NO.153』

解説 中島稔科学技術部会長

報 告 去る7月21日開催の第327回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して開会挨拶がありました。間もなく梅雨明けを迎えるが、関東地方は統計史上2番目に雨が少なく、利根川流域のダムでは、通常貯水率が80～90%のところ、現在は50%を切る寸前だという。現在10%の取水制限がとられているが、梅雨明け後10日間は日照りになるのが恒例であり、更に貯水率が減ってこれが20、30%の取水制限となると、いよいよ都民の生活にも影響が及ぶかもしれない。将来、世界的に水が不足するとなれば、いよ

いよ下水の再利用も考えなければならないが、上水以上の厳しい消毒が必要になるので、今回の技術はその将来像を見据えて講師のお話を拝聴したい。

次に、谷岡明彦東京工業大学名誉教授より、「下水の飲み水処理と材料開発」と題して、以下の趣旨の解説がありました。日本の水ビジネスは、素材の開発や処理機器と言った分野はまだ強いシェアをもっているが、事業運営やエンジニアリングと言った部門では弱く、大きな受注契約を逃すことがままある。水資源の乏しい国で、下水ですら活用できる技術を開発することが、日本の水ビジネスにとって有用となりうる。既存の技術としては、逆浸透膜によるものや太陽光発電によるものがあるが、コスト高の問題を解決できておらず、正浸透膜による方法は逆浸透膜より少ないエネルギー量ですむが、アンモニアが入りやすく、これを除去する工程がなければ飲用には適さない。そこで現在着目しているのが、カーボンナノファイバーによる浄水である。これを安価で開発することができれば、現在RO膜によって電力を用いて塩分を除去しているところを、ナノファイバーであれば塩分もフィルターに取り込むことができ、より安価で浄水ができるようになる。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース NO.152』の解説がありました。今回は、○アンモニアをエネルギー源として発電する技術。接合部の腐食も抑えられるよう工夫した。○IEA、このままエネルギー政策に変更なければ、2040年まで大気汚染による若死にが増えるとの見通し。○東京都、下水汚泥からリンを回収する事業に着手。○CO₂を電気分解し、工場の排ガスを炭素や酸素にする技術。○残飯や尿尿からアンモニアをつくる技術。○窒素と水素からアンモニアを合成する技術。○経産省、南鳥島沖のレアアース泥は77万tと言う試算。○レアアースを使わず赤色発光半導体をつくる技術。太陽電池などへの応用を目指す。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★当日会費千円にご協力お願い申し上げます。

次回、9月20日(火)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。
新規参加希望者は、予め履歴書をご提出ください。

事務局宛 FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp